

日米韓次官共同声明（仮訳）

我々、米国務副長官、日本国外務事務次官、韓国外交部第一次官は、キャンプ・デービッドの精神を継承するため、2024年5月31日にワシントンDC近郊において会談した。我々は、将来を共に見据える中で、今日の好機を捉え、また我々が直面する最も困難な挑戦に対応する上での三か国協力の重要性を共に再確認する。

我々は、インド太平洋地域全域の安全保障を強化し、平和と安定を維持するために、我々の集合的な能力を活用するというコミットメントを再確認する。我々が共有する大望と価値は、民主主義を保護し、ルールに基づく国際システムを守護しつつ繁栄を増進するという目的の下に、我々の努力を導き、また団結させ続ける。

我々三か国のパートナーシップは、インド太平洋の安全と繁栄に不可欠である。我々は、インド太平洋の水域におけるいかなる一方的な現状変更の試みにも強く反対するとともに、南シナ海における不法な海洋権益に関する主張に反対することの重要性を認識する。我々は、三か国の海上保安機関によって署名された意向確認書に基づく海上法執行を含む、海洋領域の多面的な課題に対処するため、海洋安全保障に関する日米韓協力枠組みの発展に関する議論を継続することにコミットした。我々は、国際社会の安全と繁栄に不可欠な要素である台湾海峡の平和と安定の重要性を再確認した。台湾に関する我々の基本的な立場に変更はなく、我々は、兩岸問題の平和的な解決を求める。

我々は、北朝鮮による、一層の不安定化をもたらすレトリックと行動について、共通の懸念を共有した。我々は、累次の国連安保理決議に違反して行われ、いわゆる「軍事偵察衛星」を含む、北朝鮮による最近の弾道ミサイル技術を使用した発射を強く非難した。我々は、朝鮮半島の完全な非核化へのコミットメントを再確認し、北朝鮮に対して、前提条件無しに我々との実質的な対話に関与するよう求める。我々は、北朝鮮の脅威に対抗し、地域の安全保障を強化するため、安全保障協力を引き続き拡大することにコミットした。副長官は、日本及び韓国の防衛に対する米国のコミットメントは強固であり、核を含むあらゆる種類の能力に裏付けられていることを改めて表明し、日本及び韓国と共に拡大抑止を強化するとの米国のコミットメントを再確認した。我々は、とりわけ国連安保理1718委員会専門家パネルのマンデートを更新する決議へのロシアの拒否権行使も踏まえ、関連する国連安保理決議の完全な履行を確保するための方途を追求するために引き続き緊密に協力していく。我々は、北朝鮮の人権侵害と虐待について重大な懸念を表明し、拉致問題、抑留者問題及び帰還していない捕虜の問題の即時解決にコミットする。我々は北朝鮮による不正な収益の創出及び悪意あるサイバー活動を阻止するため、引き続き連携するとのコミットメントを再確認した。我々はさらに、自由で平和な統一された朝鮮半島への支持を再確認した。

我々はまた、ロシアのウクライナに対する残酷な侵略戦争を支援している、国連安保理決議に違反する武器の移転を含む、露朝間の協力深化への懸念を共有した。我々はウクライナのエネルギー・インフラ、復旧及びロシアの行動について、その責任を追求するための取組を支援するため、より一層緊密に協調することにコミットした。我々は、地域内外の敵対的主体による外国からの情報操作により増大する国家安全保障上の脅威に留意し、この課題に対処し、より強靱な情報環境を作るために共に取り組むことにコミットした。

我々は、我々三か国すべてが国連安保理の理事国である本年、人権の保護、民主的な制度の増進、法の支配の促進のため、国連安保理、国連総会、そして他の多国間フォーラムにおいて、引き続き取り組むことにコミットした。

世界で最もダイナミックな三つのエコノミーとして、既に活気に満ちている経済的結びつきを更に深化させ、互いの繁栄に引き続き投資することは不可欠である。これらの取組を更に進めるため、我々は、鉱物資源安全保障パートナーシップ（MSP）のプロジェクトの共同支援等を通じ、経済安全保障を強化し、サプライチェーンの強靱性を高めるため、引き続き緊密に取り組むことにコミットした。我々はまた、日米韓経済安全保障協議を通じて得られた進捗について議論し、重要・新興技術についての協力を加速させ、関係当局に対し、共同研究プロジェクトの進展を促すことにコミットした。我々の経済的・技術的パートナーシップを示すものとして、我々は、4万人の学生を向こう10年間で育成する、日米韓の大学とIBMが提携した新たな量子人材プログラムの立ち上げに留意した。

我々はまた、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際関係大学院が開催する、新興技術ガバナンス、半導体及びグローバル・サプライチェーン問題、人間とAIの協調的な問題解決、倫理的なバイオテックのガバナンス、量子技術、サイバーセキュリティの課題、宇宙を含む、重要な政策分野における三か国の中堅政策立案者を訓練するための、日米韓技術リーダーズ・プログラムの来るべき立ち上げを歓迎した。

パプア・ニューギニアにおける地滑りによって引き起こされた人的損失と甚大な被害に深い哀悼の意を表すと共に、我々は、パプア・ニューギニアの人々を支援するため、救助及び復旧の取組を支援することにコミットした。米国は、米国国際開発庁（USAID）を通じて、ラスト・マイルの人的ロジスティクス及び韓国と日本により提供された人道支援の配布を含む現場レベルの支援を提供することをコミットした。我々は、被災した地域社会を支援するため、パプア・ニューギニアにおいて、引き続き人道支援と災害援助を調整していく。

我々は、太平洋島嶼国フォーラム（PIF）のブルーパシフィック大陸のための2050戦略のテーマを強く支持し、我々の共有された目標の推進のため、太平洋島嶼国及びPIF並びに「ブルーパシフィックにおけるパートナー」と、緊密に連携して取り組むことを改めて強調した。我々は、安全かつ強靱な通信インフラを進展させる重要性を確認し、太平洋島嶼国のデジタル連結性を支援することにコミットした。

我々三か国の強力な政治、経済、そして防衛面での結びつきは、教育や専門分野での交流と、スポーツ、芸術、エンターテインメントにおける活発な文化横断的な影響を含む、人と人との繋がりによって支えられ、維持されている。これらの友情の絆を更に強化するべく、我々は、本年夏に釜山で開催される日米韓グローバル・リーダーシップ・ユース・サミットへの支持を強調した。我々は、次年度以降のユース・サミットの開催及び同プログラムが我々の広報文化外交イニシアティブの定期的な一部として確立されることを期待している。我々はまた、本年夏にワシントンで開催される2024年日米韓女性経済エンパワーメント会議への参加を通じたものも含む、国内外での女性の経済的エンパワーメントの推進へのコミットメントを再確認した。

これまでの日米韓の枠組みの下での大きな進展を踏まえ、我々の協力をさらに制度化するべく、三か国の連携メカニズムのあり方を迅速に策定するよう我々のチームに指示した。

対話を締めくくるにあたり、我々は、本年下半期に、次回の日米韓次官協議をソウルで開催することにコミットし、年内に開催される次回の日米韓首脳会合を期待している。